

障がい者スポーツに係る情報交換会開催状況

※ この情報交換会は、メンバーを固定していない、ゆるやかな会合としており、オンラインで開催していますので、障がい者スポーツに関係する方、興味のある方の参加をお待ちしています。

参加を希望される方は、下記までご連絡ください。

<p>〔連絡先〕</p> <p>北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室</p> <p>担 当：萩原</p> <p>住 所：札幌市中央区北3条西6丁目</p> <p>TEL：011-204-5254</p> <p>FAX：011-232-1098</p> <p>E-mail：kansei.sports@pref.hokkaido.lg.jp</p>
--

開催年月日 〔回数〕	概要
R元. 11. 20 〔第1回〕	<p>○内容等 活動状況発表／チームメイトの集め方／スポーツ活動継続の受け皿の必要性／情報の一元化</p> <p>○参加人数 22名（19機関・団体）</p>
R2. 10. 7 〔第2回〕	<p>○内容等 活動状況発表</p> <p>○参加人数 16名（13機関・団体）</p>
R3. 1. 6 〔第3回〕	<p>○内容等 道事業概要説明／コロナ禍における活動状況発表</p> <p>○参加人数 16名（13機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言 ・コロナ禍における活動状況 「コロナ禍のため体験やサポートは断っている。個人での練習が多い」</p>
R3. 2. 17 〔第4回〕	<p>○内容等 コロナ禍における活動状況発表</p> <p>○参加人数 23名（20機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言 ・コロナ禍における活動状況 「コロナ渦のため障がい者が重い選手が参加する競技のため、練習にはスタッフが不可欠」 ・その他活動状況や提案等</p>

	<p>「競技によっては、ナショナルチームの活動が今年で休止する言われており、競技人口だけではなく資金不足が懸念」</p> <p>「施設利用が一人では認められないことが多い」</p>
R3. 4. 26 〔第5回〕	<p>○内容等</p> <p>コロナ禍における活動状況発表／情報交換会の進め方</p> <p>○参加人数 21名（18機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における活動状況 「大会の中止や活動場所が閉鎖するといった影響があった」 ・情報交換会の進め方 「事前にテーマを設定し、意見・情報を交流したい」
R3. 6. 7 〔第6回〕	<p>○内容等</p> <p>広報・周知の仕方／J-STAR プロジェクトに関して</p> <p>○参加人数 24名（21機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他活動状況や提案等 「障がい者スポーツの受け皿となる窓口がなく、支援したい企業などはあるのに勿体ない」 「パラスポーツに関する相談窓口、統括が必要」
R3. 8. 18 〔第7回〕	<p>○内容等</p> <p>若い人たちに向けたPR活動</p> <p>○参加人数 20名（18機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちに向けたPR活動 「興味はあるがきっかけがない子どもたちを誘う人がいたら良い」 ・その他活動状況や提案等 「総合体育館の一般開放枠で体験会を実施しているが周知が課題」 「競技人口減少、指導者高齢化、競技ができる場所の減少で新規の人も入ってこないが、受入体制が整わない」
R3. 10. 29 〔第8回〕	<p>○内容等</p> <p>アーチェリー、パラ・パワーリフティングについて／情報交換会において『パラスポーツ』という言葉をとらえていくか</p> <p>○参加人数 16名（14機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <p>※情報交換会において『パラスポーツ』という言葉をとらえていくか</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パラリンピックスポーツは『パラスポーツ』に含まれる」 ・パラスポーツは、障がいや年齢等、対象に合わせルールを変更し誰でも楽しめるアダプテッドなスポーツ

	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のみならず健常者であっても広く参加できるスポーツ（日本障がい者スポーツ協会→日本パラスポーツ協会） ・余暇や生涯スポーツとしての軽スポーツ ・デフ、スペシャルオリンピックス等も含み身体障がい（肢体）に限らない 「パラリンピックスポーツ（夏22競技 冬6競技）」 ・元々は『paraplegia(対まひ、下半身まひ)』 + 『Olympic』 = 『Paralympic』 ・現在は『parallel(平行、もう1つの)』という意味が込められている 「東京パラリンピック後に生じた誤解」 ①パラリンピックを略してパラ(カタカナ単語の省略文化) ②パラリンピックスポーツを略してパラスポーツ(パラスポ) ③パラスポーツ=パラリンピックスポーツ(限定)と捉えてしまう人が増加?
R3. 12. 27 〔第9回〕	<p>○内容等</p> <p>サッカー、ソフトボール、陸上競技（知的障がい）、車いすバスケットボールについて／各チームや団体の協力、コラボ企画</p> <p>○参加人数 28名（26機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他活動状況や提案 <p>「障がい児童、生徒の学校外でスポーツへ取組がなく、卒業後もスポーツができる環境が整備されていない」</p>
R4. 2. 18 〔第10回〕	<p>○内容等</p> <p>車いすラグビー、ブラインドボウリングについて／各障がい種におけるネットワークの拡大</p> <p>○参加人数 18名（16機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各障がい種におけるネットワークの拡大 <p>「パラスポーツ業界は口頭伝承が多く、どこに何があるのか、誰がいるのか情報が全く分からない」</p>
R4. 4. 22 〔第11回〕	<p>○内容等</p> <p>各団体、競技、チームの今年度活動紹介</p> <p>○参加人数 14名（12機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <p>「各団体、競技、チームの今年度活動紹介」</p> <p>①SILVERBACKS(車いすラグビー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本選手権予選に向けて、チームで練習・合宿 <p>②札幌 NFC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー・陸上・ソフトボールともに練習自粛中。大会は

	<p>実施予定のため活動再開予定</p> <p>③北海道サッカー協会 ・北海道サッカー協会や障がい者サッカー連盟、北海道チャレンジドサッカー連盟と連携</p> <p>④札幌アーチェリー協会 ・4月から活動再開。大会に向けた練習</p> <p>⑤北海道障がい者スポーツ協会 ・はまなす車いすマラソンの大会運営準備</p> <p>⑥北海道陸上競技協会 ・はまなす車いすマラソン ・正式決定ではないが、一般の大会に一部競技で障がいの部を作るよう準備中</p> <p>⑦札幌市スポーツ局スポーツ部障がい者スポーツ担当 ・体験会の開催や、みなみの杜体育館の障がい者スポーツ団体専用の開放</p> <p>⑧北海道特別支援教育課 ・特別支援学校卒業後の生徒さんへ向けたスポーツ環境のサポートをできるよう計画中</p> <p>⑨北海道スポーツ振興課 ・J-STAR プロジェクトの北海道測定会、東京パラ周年企画、体験会やセミナー実施</p> <p>⑩チャレンジドチア北海道 ・4月から活動再開。各団体の試合等の応援募集</p> <p>⑪北見フリーグス(車いすカーリング) ・4月に行われた大会で優勝。ユニバーサルカーリング大会や世界選手権への参加</p> <p>⑫ナマーラ北海道(ブラインドサッカー) ・5月に3年ぶりに札幌で公式戦があり出場</p> <p>⑬ミナリッカ(ゴールボール) ・現在活動自粛中。徐々に再開していく予定</p> <p>⑭北海道フライングディスク協会 ・2年連続中止だった大会の今年度開催に向けて調整中</p>
<p>R4. 6. 22 [第12回]</p>	<p>○内容等 札幌市近郊における障がい者スポーツの現状と課題～事業所の利用者の声～／J-STAR プロジェクト北海道測定会の周知</p> <p>○参加人数 17名(15機関・団体)</p> <p>○参加いただいた方の主な発言 ・札幌市近郊における障がい者スポーツの現状と課題～事業所の利用者の声～ 「障がいのある方々が自立した生活を送れる環境が日本全体では整っていない。資金の問題等は個人の問題で、どこま</p>

	<p>でチームでサポートできるかが課題」 「競技人口が増えないのは様々な複雑な要因(資金や介助等)がある」 ・J-STAR プロジェクト北海道測定会の周知 「様々なイベント等で裾野を広げながら、本格的に取り組む選手を拾い上げられるのが理想」</p>
R4. 8. 19 〔第13回〕	<p>○内容等 999AC 旭川を中心とした旭川でのパラスポーツ活動と知的 高等養護学校卒業生の話題 ○参加人数 20名(18機関・団体) ○概要 ・999AC 旭川を中心とした旭川でのパラスポーツ活動と知的 高等養護学校卒業生の話題 「学校卒業後に関わりが切れるとスポーツをする環境が確保できなくなる。地域一体となってスポーツができる環境が必要」</p>
R4. 10. 11 〔第14回〕	<p>○内容等 ブラインドサッカーについてと総括競技団体との連携や関係性について ○参加人数 15名(13機関・団体) ○概要 ・ブラインドサッカーについてと総括競技団体との連携や関係性について 「大会運営は全国規模の大会ではブラインドサッカー協会が主導し、地域リーグではその地域のチームと協会が協力して運営している」 「今年から協会は『LIGA. i』というブラインドサッカー初となるトップリーグを新設。出場するクラブチームは、競技力の高さのみならず、組織運営力や競技普及活動への注力度合い等、複合的な観点から決定する。出場チームは毎年固定ではなく、年単位で審査があり決定される」</p>
R4. 12. 13 〔第15回〕	<p>○内容等 NPO 法人あ・りーさだ、Team Paramount Adventure での活動について/車いすカーリングについて ○参加人数 16名(14機関・団体) ○概要 ①NPO 法人あ・りーさだでの活動について 「放課後スポーツ教室や全道スポーツ教室(30校)、修学旅行生を対象とした障がい者スポーツ体験事業(14校)を実施してきた」 ●事業を行ってきた中で感じた主な課題</p>

- ・活動する場所の確保(使える場所が限られる)
- ・実施回数の問題(経費や場所、保護者負担等総合的な要因がある)
- ・事業実施のための経費確保(予算確保が難しい)
- ・保護者の負担(負担増になると子どもたちが活動しにくくなる)

●課題解決のための手段

- ・夕張市から閉校舎の無償貸与を受け、活動拠点としている。
- ・障がい者スポーツ 15 種を常時準備、大会なども実施可能。
- ・札幌市内でも閉校舎を活用して、放課後、デイサービスを解説。

②Team Paramount Adventure での活動について

- ・2013 年に道都大及び文教大の有志で設立
- ・娘と登山に行ったことがきっかけ。車いすでキリマンジャロを登った札幌出身の方がいたことで、機運が高まる
- ・主として子どもたちを対象としている

●活動で良かったこと

- ・誰が障がいを持っているか分かりにくいのが良い
- ・学生の熱をどんどん繋げていく形を取っていたのが良かった。
- ・平昌パラリンピックにスタッフで参加した人がいた。

③車いすカーリングについて

「車いすカーリングは、健常者カーリングと環境や用具が共通しているため、競技に入りやすい」

●健常者カーリングとの繋がり

- ・日本カーリング協会は、日本車いすカーリング協会の上部団体にあたり、大会をするためには上部団体の協力が必要。大会等の主催も日本カーリング協会が主催で行われる

●競技性の違い

- ・スweepがないことが大きな違いで、投球の精度が大きく異なる。

●競技を行う上での課題

- ・健常者カーリングは五輪後から競技をする人が増えているが、車いすカーリングは体験会をやっても増えていな

	<p>いのが実情。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会の運営が厳しい。スポンサー集めもできていない。 <p>●魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全者とも対決ができる。 ・見ているだけだとただ押しているだけに見えるが、技術が隠されており、健全者カーリングとは異なる面白さがある。
<p>R5. 2. 14 〔第16回〕</p>	<p>○内容等 今年度の情報交換会の振り返りと来年度以降の会について</p> <p>○参加人数 12名（10機関・団体）</p> <p>○参加いただいた方の主な発言</p> <p>●情報交換会の振り返り、今後に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に顔を合わせる場を設定できたのは収穫。 ・顔が見えるようになるというスタートはきれたので次の段階へ進みたい。 ・行政が役割を果たす部分は当然あるが、道だけに頼らないコアメンバーでの動きも作れたらもっと良くなるのではないか。 ・参加するメンバーが固定化してしまっているのが課題。 ・こういった集まりを継続しながら、年に一回はオフラインで集まって研修会のような形で会を開いて夜は懇親会をすとかあると面白い。 ・課題解決をどのようにするか、毎回テーマが変わると議論が深まらないので、部会的な形もあり得る。 ・会が大きくなりすぎると発言しにくくなるので、細分化はあり。 <p>●会の開催ペースや時期、内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に一度とかになると一度参加できなければ次は半年後になるので、今の二ヶ月に一回が良いのではないか。 ・日程調整アンケートを毎回しているが、ある程度事前に候補日時が早い段階で決まっていたほうが参加しやすくなるのではないか。 ・会毎に担当みたいな形で回していく方法もあり得る。 ・繋がれるところは繋がっていただき、分会等で話してもらって各分会の発表をする年一回の研修会を開いて、その後の懇親会に繋げるというのは枠組みの一つの案。

●まとめ

- ・今年度の動きを踏まえて来年度に向けて固めることが必要。
- ・4月からすぐにできないとは思いますが4月にもう一度、話をして年間スケジュールを大まかに組めるようにしたい。
- ・場合によってはみんなに役回りを振って、会をよりよいものにしていきたい。